

読売 俳壇

高野ムツ才選

億年の地層へ続く蟻の列

館林市 坂口 穰

【評】河岸などの剥き出しになった露頭あたり。一列の蟻が歩いている。地層のどこかに巣があるに違いないが、蟻がまるで億年前の時空へと入っていくような錯覚にとらわれる。黙禱一分八十一年後の猛暑

下松市 田中 昌子

【評】終戦記念日の追悼。太陽神が戦争犠牲者の苦しみを忘れるなどとはかり、照りつけているのかも知れない。簡潔な数字が暗示するものは深い。段ボールむんずとひらく大暑かな

明石市 石村 まい

【評】「むんず」は普通「つかむ」を伴うが、ここでは「ひらく」。大きな音を立てて開かれる段ボールを眼前にできる。まさに大暑の候。津軽富士喜れていよいよ発つねぶた

青森市 天童 光宏

うす暗き地割れの底へ蟬の声

小田原市 北見 鳩彦

英霊の永遠の帰心や海蛸

松江市 三方 元

病室の孫と見上ぐる花火かな

札幌市 若林 陽光

滴りてこの星をなす一滴

埼玉県 西村 房男

掠群る都会の暮らしまだ不安

川崎市 大野有之介

有りたけの戸を開け放ち盆用意

神戸市 西 和代

正木ゆう子選

食パンに裂ける方向朝の蟬

東京都 大岩 摩利

【評】膨らむ方向によるのか、山型の食パンは特に、縦方向に裂きやすいかも。暑くなりそうな日だからこそ、しっかり食べる朝食。避暑地のテラス席など、似合いそうな句。地球にも表面張力露の秋

蔵市 渡辺しゅういち

【評】表面の七割を海が覆う地球は、遠くから見ればまるで露の玉のようだろう。たぶたと揺れる水を纏いつつ、自転し、公転している。虫の秋地球ほどよく傾けり

横浜市 大場のりこ

【評】太陽の周りを公転する地球は、二十三度ほど傾いている。もしも直立していたら、四季の変化は起こらない。程よく傾いていて、良かった。人の世や逝くには惜しき十三夜

福島市 木村 隆茂

糸とんぼどこで生まれて我が家まで

鹿嶋市 櫻村 則子

利根川の中州の主や青胡桃

高崎市 桜井 覚

仏壇にドデンと尾花沢西瓜

埼玉県 青木 雄二

亡き犬と走った道よ夏木立

東京都 山田真理子

星月夜私にわかる光り方

新潟市 林 ちえ

アイロンにシャツ甦る今朝の秋

朝倉市 深町 明